

『キリストにつながり続ける』 ヨハネ15:1-13

15:1 わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。

15:2 わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。

15:3 あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよくされている。

15:4 わたしにつながっていないさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていないよう。枝がぶどうの木につながっていないければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていないければ実を結ぶことができない。

15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

15:6 人がわたしにつながっていないならば、枝のように外に投げすてられて枯れる。

人々はそれをかき集め、火に投げ入れて、焼いてしまうのである。

15:7 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

15:8 あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。

15:10 もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにいるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにいるのと同じである。

15:11 わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

15:12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

15:13 人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

●序論

これは、イエスさまが、ご自身を「まことのぶどうの木」。そしてわたしたちクリスチャンはぶどうの枝とたとえて、「豊かに実を結ぶ」ために、わたしたち枝は、この木であるキリストにつながっていることが大切だとお話くださっています。

とても分かりやすいたとえです。ただ、頭でわかることだけでなく、実際そうでなくてはならない、ということが大切だということ、ここでは覚えておきたいのです。

わたしたちは、知っている、わかっている…だけでは満たされない「霊的なつながり」というものの大切さをイエスさまは語ってくださっています。それが今日のまことのぶどうの木のたとえで語られることです。

エレミヤ29:11-14

29:11 主は言われる、わたしがあなたがたに対していただいている計画はわたしが知

っている。それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。

29:12 その時、あなたがたはわたしに呼ばわり、来て、わたしに祈る。わたしはあなたがたの祈を聞く。

29:13 あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、

29:14 わたしはあなたがたに会うと主は言われる。

神さまがわたしたちに触れてくださる、出会ってくださるそしてわたしたちに将来と希望をくださる。それがイエス・キリストにつながって生きる者の経験なのです。

●本論

I. 神さまの望みを知る

それは、わたしたちが豊かに実を結ぶ者とされることです。そのために農夫でたとえられている神さまは、わたしたちを手入れしてくださるとあります。

15:1 わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。

15:2 わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。

「手入れする」ということの目的は、「もっと豊かに実を実らせるため」です。

15:3 あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよくされている。

聖書のことばを通して、抱えているさまざまな不要なものを刈りこみを受け、きれいにされる。そのすべては「もっと豊かに実を実らせるため」だとあるのです。

YouTube映像「放蕩息子たちの帰る場所」。そこには元ヤクザの3人+アーサー・ホーランド牧師の対談のようすが、周囲の人々の証しも含めて描かれていました。

30年ほど、ミッションバラバという活動をしてきた中島哲夫さんのお証

ヤクザをしながら教会に通うように導かれ、そこで神さまからの霊的な取り扱い、つまりその人生に手入れがなされていくようになるのです。

彼らには手ばなせないいろいろなもの、お酒、憎しみ、お金、立場、組との関係やさまざまあったようです。

そういうものを持ちながら、いやそれをそぎ落とされる痛い経験をしながら、そこからイエスさまを呼び求めた。それにイエスさまは答えてくださった。この単純な、神さまとの関係の中で、救いを受け取る経験をしたのです。

まさに先ほど読んだ御言葉のとおりです。

29:12 その時、あなたがたはわたしに呼ばわり、来て、わたしに祈る。わたしはあなたがたの祈を聞く。

29:13 あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、

29:14 わたしはあなたがたに会うと主は言われる。

神さまの望みは、わたしたちが救われることだと知らされます。

中島先生が、ヤクザ時代に教会を尋ねた時、開かれた聖書の言葉にもあります。

マルコ2:17 イエスはこれを聞いて言われた、「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」

神がどれほどわたしたちの救いと祝福に関心を持っておられるか、「きれいにして豊かに実を实らせる」という神さまの手入れがあることを知ることは幸いです。

Ⅱ. キリストにつながりつづける

「キリストにつながる」という経験は、人生の一番大きな決断です。そして同時に一番大切な祝福の入り口です。

先ほどのヤクザと言われる人たちだけでなく、一般人とみられるようなわたしたちも、また、神に背を向けて、神から離れて生きてきた罪人でした。

誰にも言えない不安を抱え、自分がだれかに愛される資格さえないと思い詰めることさえありました。けれども、イエスさまはそんなわたしたちを救いへ、恵みの世界へ、愛されていることの経験へと招き入れてくださったのです。

ローマ5:8 しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。

そして今日、わたしたちをこのように招いています。

15:4 わたしにつながっていないさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながってしよう。

つながって終わりではない、つながり続けていなさいと語られ、そしてそうすれば、イエスさまはわたしにつながり続けてくださるというのです。

枝だけで実を实らせることはできません。ぶどうの木につながっていないければなりません。つながっていないければ、その枝は枯れてしまい捨てられてしまいます。

枝は、その木につながっているからこそすばらしいのです。

わたしたちもイエス・キリストにつながっていることで、つながり続けていることで、わたしたちは実を豊かに実らせ、またその実のりによって、わたしたちは救われて生きていることの証しとなります。

先ほど紹介した対談の中で、やはり時々人々の厳しい目が向けられ、言葉が投げかけられることが度々あるそうです。

私が聞いていてフッと思ったのは、わたしたちはその人が結ぶ実というものを見ているだろうか。はたしてわたしはそういう実を結んでいるだろうか…と。いつのまにか、この世の一般的な評価とそこで付けられる自分のレッテルで安心し、また人のレッテルを見て見下し、いつのまにか裁いてはいないか…ということです。

15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

神さまがわたしたちに期待している「実」というのは、ただキリストにつながり続けることでしか得られない実です。いやつながり続けるからこそ得られる実なのです。

カミを手ばなして、ただキリストにつながっていよう、キリストを通して恵みを受け、キリストを通して人を見、キリストを通して歩もう、そういう歩みこそ、ただキリストにつながっている生きざまだと知りたいのです。

Ⅲ. キリストの愛のうちに生きる

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。

カミを手ばなすことです。そしてキリストの愛のうちに身を置いて生きる。それがすなわち、キリストにつながって生きるということです。

15:10 もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちに
おるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のう
ちにおるのと同じである。

「いましめ」

15:12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、
あなたがたも互に愛し合いなさい。

わたしたちが結ぶ実は「愛する」ということにおいてあらわされます。

かつて愛することとは縁遠かった人が、愛する人になる。それは奇蹟です。

そこには、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい」という招きがあります。そしてこう続くのです。

15:13 人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

「人が友のため自分の命を捨てること」、簡単に言えることではありません。

世間の常識や自分の力ではできない、けれどもその愛を、キリストはあの先生方の内に、そしてわたしたちの内に注ぎ続けてくださるのです。そこに違いが生まれます。

それが「キリストにつながり続ける」ことの祝福です。

最後に)

エレミヤ29:11 主は言われる、わたしがあなたがたに対していただいている計画はわたしが知っている。それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。

神は、キリストにつながり続けるわたしたちにこれらを、「与えよう」としてくださっているのです。